

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成22年 8月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・憩いの場づくりが行えるよう、家庭的な暮らしと家族のような人間関係の中で、職員と入居者様が共生・協働により、家事や洗濯、掃除、買い物などの生活を一緒に行っています。生きがいづくりに関して、趣味や特技、こだわりを大事にしながら、自律に向けて支えていきます。今年度は、特に接遇と認知症ケアを重点とした運営をしています。具体的には、パーセン・センター・ド・ケアの概念を基に、その人、その人にあった生活の継続を行いながらも、認知症の原因疾患や中核症状に配慮し、行動・心理症状が出現した場合でも、対決しないよう自社の研修や認知症東京研究・研修センターのひもときシートを活用し、「考える認知症ケア」をチームで行う取り組みをしています。2カ月に一回の託児所との交流、2カ月に一回の就労支援施設との交流、NPO法人1団体、ボランティア団体3団体の定期交流、その他登録ボランティア50名随時に地域で認知症サポーター養成講座を開催

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員が認知症の方への対応に関する考え方を統一するため研鑽している。利用者が生きがいや楽しみを感じられるよう一人ひとりに合わせて、絵画療法や音楽療法、園芸療法などが行われている。日々の生活の中で、利用者が魚をさばいたり食器を洗ったり、得意なことやできることを無理なくしてもらうことで達成感を感じてもらっている。積極的に他のグループホームと協力し、認知症の理解や災害時の対応について研究し実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成22年 8月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員が理念を実践している。運営推進会議で理念を具体化した内容を発表したり、地域活動に参加し交流を深めている。また、人事考査や勉強会にて個々の考える具体的理念や目標を言ってもらい、共有・共感を行ない質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 地域との交流を理念の中に盛り込むために職員の意見を聴き、話し合いにより理念を再考した。新人職員の入職時には全員で唱和し共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日々の関わり（散歩時、ゴミ捨て時等）を大事にしながらホームの行事（防災訓練、そうめん流し、夕涼み等）に参加して頂いたり、町内の行事（地域の清掃行事や運動会、盆踊り等）に参加し、地域の方々との交流を大切にしている。また、参加していただいた時に、入居者様へのお手伝いやお話し相手の協力もして頂き、より深い関係作りを行なっている。</p> <p>(外部評価) 町内会にも参加し、ゴミステーションの新設を提案したり、ゴミ置き場の清掃などもしている。地域の行事にも積極的に参加・交流しているが、散歩時の挨拶などの日々の交流を一番大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) そうめん流し、夕涼み会など地域の方々を招待し、一緒に食事やお話をして頂くことにより、認知症の理解や支援をして頂いている。また、3か月に1回程度認知症サポーター講座を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、年一回独自の評価表に基づき、ご家族と一緒にその項目に基づき、評価や意見をいただくようにしている。また、現在のケアや利用状況を運営推進会議で報告・話し合いを行い、そこで得た意見をもとにサービスの向上に繋げる為、職員会等で話し合っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議をきっかけに地域の一員として認められてきており、地域交流会として夕涼み会を開催するなど地域での活動が徐々に浸透してきている。運営推進会議の参加人数が多い時は公民館を使用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議やホーム行事などの際、案内をし訪問して頂き、入居者・職員と話をする機会を作っている。認知症サポーター養成講座を通じて、意見交換などを行っている。また、生活保護受給者に関しても、生活福祉課担当者と状況の連絡を密にとったり、退去者の福祉電話などの福祉サービス導入に結びつけたりしている。</p> <p>(外部評価) 認知症サポーター講座を開催したり、事業所にこの地域のグループホーム連絡協議会事務局を置いている関係から市職員とは頻りに情報交換をするようにしている。市職員に運営推進会議に出席してもらうほか、生活保護を受けている利用者についても協力を得ている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 研修や勉強会等を通じて、職員全員が身体拘束について正しく理解し、適切なケアに取り組んでいる。また、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」以外の抑圧となるであろう行為についても十分注意し、支援している。</p> <p>(外部評価) 不適切なケアにつながらないような「考え方」を重視しており、身体拘束の弊害を、職員一人ひとりが考え行動できるよう職員教育を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修などで学び、管理者を中心に、職員間でケアのチェックを行い拘束がないようにしている。言葉かけは、目上の方という意識をもち関わりをもっている。管理者が、高齢者虐待防止教育システムについての講習会を開き職員に伝達を行った。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開き、学んだ資料などはコピーして職員全員が把握できるようにしている。県社会福祉協議会に個別で相談に行き、必要な方の利用相談に応じている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の記載内容などを契約前にご家族やご入居者などに説明をし、理解納得していただき、住みやすい環境であると思っただけよう努めている。重要事項などが変更した場合、家族会を開き、不安や疑問の確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者会議の時間を設け、旬の食べたい物や行きたい場所など、テーマを決めて意見をいただくようになっている。また、全入居者の担当制を継続しており、担当が不安や意見の窓口の役割を担っている。運営推進会議においても、入居者様も参加され、意見を述べる機会を設けている。 (外部評価) 家族会があり、そうめん流しや夕涼み会など、交流を多く持つことで何でも言ってもらえる関係になれるよう努力している。また、利用者家族には認知症サポーター講座に参加してもらい、認知症への理解を深めてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 第2木曜日に職員会を開いたり、6か月に1回人事考査を行い、意見の聴取に努めている。職員会には、経営者も参加し意見交換や話し合いなどを行っている。また、運営推進会議や家族会、広報誌などにも、職員の意見を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 各種委員会を設置し、全職員がいずれかの委員となっている。職員の自発的な提案を取り入れるようにしている。懇親会やスポーツによる交流会などを実施し、話をしやすい雰囲気の中で意見を聴いたり、定期的な面接の場で意見を聴いている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 6か月に1回人事考査を行い、就業状態やケアに関して、自己評価と、代表者、管理者の評価を行い、三者面談を通じ、勤務状況や、職員の努力、これからの目標などを評価し、賞与や給料などに反映している。職員は目標を持って働くように勤めてる。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 勉強会を行い、職員の意見を参考にして、ケアや業務に関して、テーマを持って勉強ができる環境を作っている。外部の研修にも年に3回は行けるように、勤務に応じ参加を促している。新職員には担当指導者がつき、介護業務のチェック表に基づき、育成に努めている。又、考える認知症ケアができるよう力を入れている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 就労支援施設や託児所と職員を含め交流を行ったり、毎年、相互研修に参加したりして、意見交換やサービスの向上に努めている。また、石井久谷地区のグループホーム連絡会にも出席し、施設の見学をさせていただいたりと他施設職員との交流を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 全職員が表情や精神面などの変化に気づけるように勤めている。事前の情報や暫定ケアプランなどにより、家族様に相談したり、管理者や計画担当者だけでなく、担当職員が個別に聴く機会を増やして、不安の軽減に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様と連絡を密にし、ご家族さま来訪時などに生活状況をお伝えしたり、どんなことに困っていたかなどを聞き、対応などを一緒に考えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当職員を中心として、その方にあったサービスを職員で話し合っている。利用相談時、満床であるため、すぐ入所が出来ないこととお話した上で、必要性が高い方には、他の施設の紹介をしたり対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その方の好きな趣味や生活参加（役割活動）を中心として、職員と一緒に料理を作ったりお花を植えたりして、日々の生活を共に過ごし、その中で信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベント時や外出時には、家族様に連絡し、参加できるときは参加して一緒に過ごしていただく時間を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) その方の住んでいた地域への散歩や行事を利用し、馴染みの方と会う機会を継続している。家族様や家族様以外のお友達の方等も、会いに来られると居室でお話して頂いている。 (外部評価) 利用者が友人や関係者に電話したり、友人が訪問してくれるなど、馴染みの人との関係が継続している。地域行事に多く参加することにより、関係が継続できるように心がけている。同一施設で行われているデイサービス利用者との関係も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他の方との関係性が難しい方や話の組み立てが難しい方には職員が間にはいりコミュニケーションがうまく図れるように支援している。食事は毎食、職員やボランティアを含め、リビングで食べるようにし、おやつやレクリエーションを通して、関係づくりの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、ご自宅や病棟を訪問したり、ホーム内でのイベント時の声かけをしたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当職員を中心に、独自のアセスメントシート、ひもときシート、センター方式などを利用して、要望や思いの把握に努めている。また、生活においては、その都度、本人様に希望を聞いたり、入居者会議を毎月実施し、行事の説明や一人一人の入居者様の希望をお聞きしている。 (外部評価) センター方式を取り入れた把握シートや「ひもときシート」を使用し、利用者の言葉を細かく記録している。利用者が昔から大切にしているものなどが分かり支援することができている。家族から利用者の昔の写真を提供してもらい、一人ずつのスライドを作り始めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを通じて、生活歴など把握しているが、本人様からや家族様からも今までの生活の話は日常や面会時にお聞きするようにし、家族様と協力して把握していきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝・夕の申し送りや介護記録、日報で生活状態を毎日わかるようにしており、職員間で情報の共有ができるようにしている。重要な事は、日報に赤線を引いたり、再度ユニットの申し送りノートに記載したりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> 担当職員が、アセスメント表をもとに意見交換をし、職員会や勉強会で話し合った内容を参考に、カンファレンスをユニットで行う。本人の意見を一番に考え、可能な限り実行できるように努めている。また、家族様にも協力してもらい、より良いケアが出来るように取り組んでいる。	
			<p>(外部評価)</p> 毎日の実践について日次や月次モニタリングを行っている。目的に応じて利用者の様子が詳細に記録がなされており、介護計画を立案するための有益な情報源となっている。管理者と職員が相談し、利用者に合わせて記載方法を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> 個別の介護記録にプランの評価や本人さんのそのまの言葉を記録するようにしたり、入居者様に何か変わったことなどあれば、相談し職員間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 入居者様の意思や、必要性に応じて、外出や外食、好きなものの買い物だけでなく、入居者様が今望むものを可能な限り、行えるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その他の当ホームでの行事にも、地域の人を招待し、お話など入居者様に楽しんでもらえるように取り組んでいる。イベントのときは、運営推進会議で呼びかけを行い、メンバーに参加していただいている。また、行事のときを中心に、北井門の地域組織などと協力をしながら、支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んでいただいている。また、医療連携がとれるよう内科、眼科、皮膚科 泌尿器科、歯科、心療内科より往診もしていただいている。電話相談や随時往診もしていただいている。 (外部評価) 協力病院になってもらっている医療機関は、歯科など も含め往診が可能で、ほとんどの利用者がかかりつけ 医として診察してもらっている。往診での対応が困難 な場合は家族が受診に付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 身体状況の変化など電話での相談をし、いつでも受診 ができるようにしている。また、定期的な訪問時に相 談をしたり、入居者様の健康管理に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、情報提供票を作成し、入院時の生活に役立 てていただいている。その他、お見舞いの機会や電話 により病院と情報を交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家族様と終末期の方針について、話し合い同 意書もらっている。ホームに入居中、状態に変化、 異常が見られた場合は、主治医と話し合い、職員など を交えて病状説明や今後の生活や医療面の話し合いを 行い、必要な状態になったと主治医が判断した場 合は、看取りの指針に沿って、今後の話し合いを行う。 (外部評価) 利用者や家族と、入居時に看取りの指針により説明を 行っている。また、状況に合わせて随時、相談も行っ ている。新人職員には、看取りについての教育を行っ ている。夜間は最低2名の勤務外職員に連絡が取れる 体制としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ご家族様との連絡や関わりをふやし、生活状態を積極的にお伝えし、信頼関係を深め、何かあってもすぐ対応ができるようにしている。職員が研修などに参加して応急手当や初期対応の訓練を受けている。また、職員は救命救急法を毎年受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練は、全職員が参加できるようにし、北井門自主防災組織や町内会、民生委員、地域住民に協力してもらっている。マニュアル及び緊急連絡網をスタッフルームに備え、各ユニットに火災報知器を設置、備蓄も行なっている。避難訓練を毎年2回行っている。訓練後の意見交換も行なっている。 (外部評価) 災害時の地域への資源提供を考えており、地域の他のグループホームにも呼びかけて資源マップ作りに取り組んでいる。日常的にも地域に貢献できるよう「まもるくんの会社」としても登録している。	繰り返しの避難訓練、地域への資源提供など高いレベルに達しているが、さらに勉強をして行きたいと考えている。避難訓練の実施方法など、利用者の生命を守るための今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報に関しては、秘密保持の誓約を全職員交わしており、その重大さも十分に理解している。プライバシーに関わる話をするときは、居室に移動したりして対応している。言葉かけの内容の検討は、利用者の尊重・誇りを十分に考え関わっている。 (外部評価) 自分に置き換えて考え、行動するよう職員を指導している。接遇については、グループホーム連絡協議会等の研修への参加や、新人職員対象の事業所内研修の実施を通して学習する機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で、服や飲み物など選んでいただく場合、「どれにしましょうか？」とお聞きしたり「どちらにしましょうか？」と選択肢を徐々に狭め、自己決定へと導くようにしている。あくまで焦らず、ゆっくりとお聞きし、利用者の自己決定を促せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 窓際で日なたにあたりたい方、歌謡ショーをみたい方、お昼寝をしたい方、その方の意志を尊重し支援できている。また、自然な形で寄り添い、声かけすることで、いま何がしたいのか把握するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 普段の生活の中で、髪を整えたり、お化粧をしたり、服が汚れたりしていないかを確認したり、自分がどの服を着たいかを選んで頂いている。また、なじみの美容室に行ったり、希望により訪問美容サービスが受けられるようにもしている。ただ、日中着くずれがあったりした時整え不足の時がある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人、好みの物、苦手な物等をお聞きしたりして一覧を作っている。2週間に1回メニューの中にそれぞれの入居者様の好きな物を取り入れている。また、食材を作る(野菜の種まき)から、準備、料理作り、食器洗い、片付け等を通して、入居者様と協力して行っている。 (外部評価) 全て事業所で作っている。魚をさばく、食器を揃える、テーブルを拭く等、利用者ができることを行い、職員と一緒に準備や片付けを行っている。器の種類や料理の出し方などさまざまな工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重増加や糖尿病などがある入居者様にはカロリーの制限を行ったり、量を減らしたりしている。また、体重の著しい減少がある入居者様には、補助食品や嗜好品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり取られない入居者様には、食事の間に水分を取ってもらえるように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人の状態を把握し、その方に応じて歯間ブラシを使用し口腔ケアを行なっている。一人ではなかなか難しい方は、職員が横に付き添い手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 必要な方には排尿チェック表を使用している。いつも何時くらいに排尿があるかなどを確認し、失禁しないように声かけできるようにしている。	
			(外部評価) 利用者ひとり一人に合わせ、チェックシートを使ったり、様子を観察し誘導している。高齢者には膀胱炎のため頻尿になることも考えられるため、必要と思われる時には泌尿科の受診を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 入浴時にお腹を観察し、腹部膨満があれば、浴槽内でマッサージを行い出来る限り自然に排便できるように努めている。また、飲食物の工夫や、腹部マッサージ、牛乳、ヨーグルト等、取り入れ予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の好まれる時間を把握している。一番風呂がいい方、午後からの入浴を好まれる方、その方に応じて支援している。また、毎月お風呂の楽しみの提供として、お茶湯、レモン湯、桃の湯など効果をお伝えし入浴を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 朝風呂や夜間入浴など、利用者の希望に応じて入浴することができるよう準備している。3日に1回は入ってもらうようにしている。入浴を気持ちよくしてもらうための工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体操や散歩に出かけ、体を動かして夜間眠れるように支援している。また、夜間眠れない入居者様がいいたら、リビングに出てきてもらい、ホットミルクを出したり、室温の調整、職員が話し相手になり不安な気持ちを解消して休めるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があれば、医療ノートと申し送りノートに記入し職員が情報を共有している。誤薬がないように、薬局の薬剤師とも連携し、職員が薬に関する疑問があれば相談したり、入居者様に関しても、不安などあれば直接入居者様へ説明してもらったりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者様の生活をして来られた役割、趣味を身体状況に応じて積極的に参加してもらうように支援している。ご家族にも協力していただき、昔使っていた物等を持ってきて頂き活用するようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出したいという希望があれば出来る日を作り、それ以外にも、外食に行ったり外出したりしている。必要な方は、ケアプランにも組み込んでいる。外食しなくても庭に花を見に行ったり水やりを行なって日なたに出て日光浴を行なっている。 (外部評価) 日常的に公園への散歩や買い物に出かけたり、季節の花を見るためのドライブや、地域の運動会やバザーにも出かけている。遠方へのドライブ時には家族にも声をかけ喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と相談し、入居者様に少額の金銭管理をしていただいている。買い物などの際は、職員確認のもとご自分の財布から自分で支払いをしていただいている。欲しいものがあれば、立て替えの許可を事前に頂いているため、気軽に本人と一緒に買い物に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 「電話をかけたい」と希望があれば、職員と一緒に電話をかけて、ご家族の方とお話して頂いている。また、必要に応じて入居者が書いたお手紙をだしたりしている。また、ご家族の方で、面会がしにくい方には、定期的な電話でのやり取りをご依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 環境委員を中心に、季節によってホーム内に季節を感じる飾りを飾っている。定期的な換気（一日4回以上）湿温度計を確認し生活しやすいよう外気温との差を含め、気をつけている。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態に合わせて、テーブルやいすの高さを調節する等の配慮がなされている。家庭的な雰囲気の中で利用者がゆったりと生活していることがうかがえる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士の関係を把握し本人の意思に基づき、席を決めている。決めさせていただいた席の机や椅子は、高さを変えたり、クッションを置いたりして、居心地がいいように工夫している。その人によって畳みコーナーや玄関付近のベンチが居心地のよい空間になっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、本人が作成した作品を飾ったり、本人の使い慣れた家具や、アルバム、好みのものを持ち込み、使用して頂いている。車いすに関しても、背張りや背クッション、座面クッション、式台などを含め、長時間使用する場合は、工夫している。</p> <p>(外部評価) お気に入りの置物や大切なアルバムなど、思い思いの物を居室に飾っている。居室の調度品は利用者の好みや身体状況に合わせて配置されている。利用者が持ってきたベッドやソファに傷みが生じたときは、使い続けられるように職員が修理している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 食事作りは入居者様と職員と一緒に野菜の皮をむいたり、野菜を切ったり混ぜたりができるテーブルやまな板を用意している。電磁調理器を利用し、炒めたり、混ぜながら煮る作業も、入居者様にして頂いている。その出来ない所をお手伝いさせて頂いている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成22年 8月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・憩いの場づくりが行えるよう、家庭的な暮らしと家族のような人間関係の中で、職員と入居者が共生・協働により、家事や洗濯、掃除、買い物などの生活を一緒に行っています。生きがいに興味や特技、こだわりを大事にしながら、自律に向けて支えています。今年度は、特に接遇と認知症ケアを重点とした運営をしています。具体的には、パーセン・センター・ド・ケアの概念を基に、その人、その人であった生活の継続を行いながらも、認知症の原因疾患や中核症状に配慮し、行動・心理症状が出現した場合でも、対決しないよう自社の研修や認知症東京研究・研修センターのひもときシートを活用し、「考える認知症ケア」をチームで行う取り組みをしています。2カ月に一回の託児所との交流、2カ月に一回の就労支援施設との交流、NPO法人1団体、ボランティア団体3団体の定期交流、その他登録ボランティア50名随時に地域で認知症サポーター養成講座を開催

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員が認知症の方への対応に関する考え方を統一するため研鑽している。利用者が生きがいや楽しみを感じられるよう一人ひとりに合わせて、絵画療法や音楽療法、園芸療法などが行われている。日々の生活の中で、利用者が魚をさばいたり食器を洗ったり、得意なことやできることを無理なくしてもらうことで達成感を感じてもらっている。積極的に他のグループホームと協力し、認知症の理解や災害時の対応について研究し実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成22年 8月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営推進会議で、理念を具体化した内容を発表したり、朝の申し送りの際、理念を唱和し、念頭におき1日の業務を行なっている。新人職員などが入職した際は、理念の具体化に関して、話し合いをして頂き、全職員で共有するようにしている。</p> <p>(外部評価) 地域との交流を理念の中に盛り込むために職員の意見を聴き、話し合いにより理念を再考した。新人職員の入職時には全員で唱和し共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 夕涼み会やそうめん流しなどの行事を毎年行い、開催の際は、地域の方々にチラシや手紙を配って、参加して頂き、一緒に盛り上げていただいたり、お手伝いをして頂き、入居している方や職員とともに、地域の方々とよりよい関係、交流作りを行なっている。</p> <p>(外部評価) 町内会にも参加し、ゴミステーションの新設を提案したり、ゴミ置き場の清掃などもしている。地域の行事にも積極的に参加・交流しているが、散歩時の挨拶などの日々の交流を一番大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 散歩などを利用して、ゴミステーションの掃除や草引き等を行っている。また、地域の認知症高齢者の一時利用や、依頼があれば訪問等も行っている。また、近くの公民館を借りて、色々な認知症に関する講座を開き、地域の認知症に関する啓発に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、年一回独自の評価表に基づき、ご 家族と一緒にその項目に基づき、情報交換、意見交換 を積極的に行い、それを勉強会や職員会で話し合っ てサービス改善に活かしている。また、利用者様にも参 加して頂き、その声を直接外部の方に聞いてもらう機 会としても役立てている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議をきっかけに地域の一員として認められ てきており、地域交流会として夕涼み会を開催するな ど地域での活動が徐々に浸透してきている。運営推進 会議の参加人数が多い時は公民館を使用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議やホームの行事などにも声をかけて訪問 して頂き、直接に利用者、職員と話をする場を作っ ている。認知症サポーター養成講座を通じて、意見交 換を行なっている。また、生活保護受給者に関し ても、生活福祉科担当者と状況の連絡を密にとり、退去 者の福祉電話などの福祉サービス導入に結びつけてい る。</p> <p>(外部評価) 認知症サポーター講座を開催したり、事業所にこの地 域のグループホーム連絡協議会事務局を置いている関 係から市職員とは頻繁に情報交換をするようにしてい る。市職員に運営推進会議に出席してもらうほか、生 活保護を受けている利用者についても協力を得てい る。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 定期開催にしている運営推進会議をはじめとして、ホーム行 事などにも声をかけて訪問していただき、入居者様、職員と 話をする場を作っている。認知症サポーター養成講座を通じ ても、意見交換などを行っている。また、生活保護受給者 に関しても、生活福祉課担当者と状況の連絡を密にとり、 退去者の福祉電話などの福祉サービス導入に結びつけたり している。</p> <p>(外部評価) 不適切なケアにつながらないような「考え方」を重視 しており、身体拘束の弊害を、職員一人ひとりが考え 行動できるよう職員教育を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止教育システムを取り入れ、その内容を勉強会で学んだり、日々の観察を行うだけでなく、職員の精神ケアもしっかりとされており、虐待が見過ごされないよう努められている。特に、言葉かけが悪かったりしたら、言葉の圧迫にならないように、すぐ対応して、そのままにならないようお互いに注意を促すように気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度などについての勉強会を開き、学んだ資料などはコピーして職員全体がイメージや把握できるようにしている。また、職員代表に外部研修に参加してもらい勉強会にて、伝達・共有し合う機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前にご家族やご入居者などに十分説明をし、理解納得をしていただけるよう努めている。重要事項などが変更したら、家族会を開催し、不安や疑問の確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三水曜日のおやつ時間を入居者会議として、旬の食べたい物や行きたい場所、各月のテーマを決めて、意見をいただくようにしている。また、全入居者を担当制を継続しており、担当が不安や意見の窓口の役割を担っている。運営推進会議においても、入居者様も参加され、意見を述べる機会を設けられている。 (外部評価) 家族会があり、そうめん流しや夕涼み会など、交流を多く持つことで何でも言ってもらえる関係になれるよう努力している。また、利用者家族には認知症サポーター講座に参加してもらい、認知症への理解を深めてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月第2木曜日に職員会、6か月に1回人事考査を行い、意見の聴取に努めている。また、提案があれば、稟議書や行事計画書、企画書を職員が提出し、実施できるようにしているとともに、スポーツ交流会などを開き、言いにくい意見も聞ける場を設けている。 (外部評価) 各種委員会を設置し、全職員がいずれかの委員となっている。職員の自発的な提案を取り入れるようにしている。懇親会やスポーツによる交流会などを実施し、話をしやすい雰囲気の中で意見を聴いたり、定期的な面接の場で意見を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 6か月に1回人事考査の際に、就業状態やケアに関して、自己評価と、代表者、管理者の評価が項目ごとに行われ、三者面談を通じ、勤務状況や、職員の努力、これからの目標などを評価し、賞与や給料などに反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人には担当指導者がつき、介護業務のチェック表に基づき、段階的な職員育成に努めケアの向上に努めている。また、外部、内部研修に積極的に参加できる機会を設けている。又、考える認知症ケアができるよう力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 行事の開催などの際に、知的障害者のデイや託児所の職員との交流を通じた話し合いを行ったり、グループホーム協会の相互研修に参加したりし、福祉同業者との意見交換やサービス向上に努めている。また、管理者が石井久谷地区のグループホーム連絡会の会長をしており、他施設との交流が盛んに行われている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、体験入居や訪問、ショートステイ等を行うことで、入居者様との関わり、情報収集を行い、本人や家族のニーズに答えられるようにし、暫定ケアプランを作成し、それに基づくケアを行うことで信頼関係を築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、訪問や来所してもらい現状や状況をよく聴取し、課題解決のための方法を模索するようにしている。また、入居者様において、全職員が入居者様の声に耳を傾け、家族様と相談したり信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者様の各担当職員が中心になり、本人様の思い、家族様の思いなどに耳を傾け、個々に応じたサービスに努めている。また、利用相談時、満床である場合は、すぐの入居ができないこととお話した上、必要性が高い方には、他の施設の紹介したりして対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) なじみの関係づくりをおこなえるよう、本人さんに声をかける機会を増やしたり、お花を植える事やまな板仕事など趣味を活かした楽しみを一緒に行う機会を増やすように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出の際には、積極的にご家族に協力を求め、茶菓子などの提供をし、本人さんと関わる時間を意図的に作ったり、散歩やお話相手の協力を頂いている。ケアにおいては、入居者様だけでなく、家族様の思いや、かかわりを大事にしながら関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人さんのなじみの場所を散歩したり、行事で出かけたりしている。また、地域の盆踊りや運動会に出かける際、家族様にも参加して頂いたり、見慣れた方が、声を自然とかけてくれて、関係の継続に役立っている。 (外部評価) 利用者が友人や関係者に電話したり、友人が訪問してくれるなど、馴染みの人との関係が継続している。地域行事に多く参加することにより、関係が継続できるように心がけている。同一施設で行われているデイサービス利用者との関係も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様の中に、職員が入ったり、レクリエーションや、イベント、外出をすることで、お互いが交流を持って、共同生活という場の中で、共通の趣味や、料理、洗濯といった家事等、役割分担をすることで、良い協力関係が築けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、その方のご自宅を訪れ、家での生活の状態を確認し、不安や悩み相談を行っている。また、退去された方からも、お話をされに來られたりと、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 独自の把握シートや課題抽出のアセスメントシート、センター方式のアセスメントツール、ひもときシートなど、その時やその状況に合わせたアセスメントツールを導入し、ご家族の思いや意向の聞き取りを行っている。これらを活かしたプランで生活に反映できるよう検討している。また、入居者会議やカンファレンスにて担当者を中心に一人一人の思い、意見交換を行っている。本人の意見を、尊重して、入居者様の気持ちを少しでも把握しようと日々努めている。	
			(外部評価) センター方式を取り入れた把握シートや「ひもときシート」を使用し、利用者の言葉を細かく記録している。利用者が昔から大切にしているものなどが分かり支援することができている。家族から利用者の昔の写真を提供してもらい、一人ずつのスライドを作り始めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家や病院でサービスを利用されていた方は、介護支援専門員や病院の相談員に情報提供書などを依頼し、それを今後のケアの参考にしている。入居後は、ご家族の方にも協力していただき、様々なアセスメント表を活用して、それを元に作成されたケアプランに沿ってケアを行っている。日々の介護記録でも、各担当が中心となり、プランの評価を毎月記入し、把握できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 9人の入居者様がどこで、何をしているかをイメージしながら、職員が業務を行うようにしている。入居者様の状態、表情、しぐさや態度、言葉を各職員が観察することで、本人のできる力・わかる力を把握し、職員同士が声をかけあい情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当職員に、アセスメント表をもとに意見やアイデアをだしてもらい、(月末)職員会や勉強会で話し合った内容を参考に、カンファレンスをユニットで行う。その内容を元に計画作成者を含めたケアプラン担当(各ユニットの実践者研修受講者4名)とケアマネが原案を作成、その後、ご家族、本人と話し合い、介護計画を修正しながら作成している。本人の意見を一番に考え、より良く暮らす支援として何がなか、可能な限り実行できるように検討している。また、家族様にも協力してもらい、より良いケアが出来るように取り組んでいる。モニタリングは、計画作成者だけでなく、担当職員も日次、月次モニタリングを行い、把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 毎日の実践について日次や月次モニタリングを行っている。目的に応じて利用者の様子が詳細に記録がなされており、介護計画を立案するための有益な情報源となっている。管理者と職員が相談し、利用者に合わせて記載方法を検討している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) その時あった内容、情報をプランに沿って細かく、具体的に記録に残し、日々の様子や気づきも記録している。特に「J」書きで、本人やご家族の言葉を大事にし、記入している。更に職員間での、伝達、情報の共有に力をいれ、日々のケアに活かせるよう努めている</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居者様やご家族の要望や、その時々々の必要性に応じて、訪問リハビリ、訪問看護、病院受診など必要なサービスを利用している。入居者様が今望むものを可能な限り、行えるように取り組んでおり、音楽療法の提供も行ったり、希望者に対して、公民館行事への参加支援も行ったりしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 防災訓練では、地域の防災組織や近所の方に協力していただいている。その他の当ホームでの行事にも、地域の人を招待したりして、その機会を利用して地域資源を把握しながら、入居者様に楽しんでもらえるように取り組んでいる。イベントのときは、運営推進会議で呼びかけてメンバーに参加していただいたり、支援して頂いている。NPO法人1法人、地域ボランティア団体(3団体)や北井門の地域組織、また、行事や日常生活も通して、専属の50名の登録ボランティアなどと協力をしながら、支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んでいただき、医療 連携がとれるよう内科3医院、眼科1医院、皮膚科泌尿器科1 医院、歯科1医院、心療内科1医院より往診をしていただい ている。また、定期的な往診だけでなく電話相談や随時往診も していただいている。受診の際は、医療ノートに結果を記載 し、職員がその情報を共有している。他にも、個人の希望に 沿った理美容サービスも提供している。 (外部評価) 協力病院になってもらっている医療機関は、歯科など も含め往診が可能で、ほとんどの利用者がかかりつけ 医として診察してもらっている。往診での対応が困難 な場合は家族が受診に付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 定期的な訪問時や電話等で入居者様の情報や気づきを相 談、質問をして、入居者様の健康管理に努めている。 また、入居者様とも顔なじみの関係が出来ている。変化 があった場合は、職員間での情報の共有を徹底し、 すぐ対処できるよう、普段から馴染みの関係作りや気 付きに努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、情報提供票を作成し、現在服用中の薬、 既往歴等お伝えし、入院時の生活が円滑に送れるよう 努めている。その他、お見舞いの機会や電話により病 院と情報を交換している。また、早期退院に向けて病 院と方向性や今後のケアについて話し合い、入院中や 退院後のストレスや負担の軽減に結び付けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家族様と終末期の方針について、話し合い同意書 をもらっている。ホームに入居中、状態に変化、異常が見 られた場合は、主治医と話し合い、職員などを交えて病状 説明や今後の生活や医療面の話し合いを行い、必要な 状態になったと主治医が判断した場合は、看取りの指 針に沿って、今後の話し合いを行う。また、その後も、 定期的に病状説明を主治医、職員などと協力しながら、 ご家族などに説明する。その話し合った内容や方針は、 介護記録や医療ノート、申し送りノートに記入し、 職員の間で情報を共有している。 (外部評価) 利用者や家族と、入居時に看取りの指針により説明 を行っている。また、状況に合わせて随時、相談も行 っている。新人職員には、看取りについての教育を行 っている。夜間は最低2名の勤務外職員に連絡が取 れる体制としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ご家族様の面会時に職員から生活の状態などを積極的にお話しし、信頼関係を深め、急変や事故があった際もクレームや不安を軽減できるようにしている。入居者様が急変して、対応した際はドクター、管理者、家族様に連絡を取り、指示に従い対処する。急変時に備えてのマニュアルも作っており、いつでも対応できるようにしてある。応急処置をした場合は、その内容を介護記録や医療ノート、申し送りノートなどに記載し、職員が共有している。職員は毎年救急救命法を受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練は、全職員が参加できるようにし、北井門自主防災組織や町内会、民生委員、周辺地域の住民に協力してもらっている。地震水害対策のマニュアルもあり、それに沿っての地震訓練を過去2回以上行っている。訓練時は、毎回最悪の事態を想定して行うようにし、当日の訓練実施者を誰にするかは、当日まで本人に通達せず、突然起こる災害に備えた訓練を実施している。 (外部評価) 災害時の地域への資源提供を考えており、地域の他のグループホームにも呼びかけて資源マップ作りに取り組んでいる。日常的にも地域に貢献できるよう「まもるくんの会社」としても登録している。	繰り返しの避難訓練、地域への資源提供など高いレベルに達しているが、さらに勉強をして行きたいと考えている。避難訓練の実施方法など、利用者の生命を守るための今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様への声かけは、馴れ合いになつてしまわないよう意識し行なっている。人生の先輩であること、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを忘れず、職員間でも注意しあえるようにしている。部屋には、暖簾をかかげドアが開いている時も、一定のプライバシーが守れるように配慮している。プライバシーに関わる話をするとき、居室に移動して頂き行っている。 (外部評価) 自分に置き換えて考え、行動するよう職員を指導している。接遇については、グループホーム連絡協議会等の研修への参加や、新人職員対象の事業所内研修の実施を通して学習する機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物一つにおいても、いくつかご用意して選んでいただくようオープクエッションできいたあと、クローズクエッションで選択肢を決めてもらうように心がけている。入居者会議においても、意見を多く取り入れ、出来るだけ希望にそえるよう努めている。他にも、日常生活の中から、担当職員が話を聞き対応できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のリズムや、その日の希望、体調に合わせてながら、ケアプランに沿って、できるだけ満足の行く充実した生活をして頂いている。職員側の都合や決まりごとを優先するのではなく、利用者様にペースを合わせ支援していけるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者様が行きなれた美容室や、行きたいと思う外出先、行事の際には、計画の段階から身だしなみやおしゃれの準備をする時間を作っており、女性の方にはお化粧を、男性の方には、髭の剃り残し等、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の一連の作業を利用者様と職員とが一緒に行っている。季節のものも献立に取り入れながら、食事が楽しいものになるよう努めている。利用者様の好き嫌い表を作成しており、飲み物も「熱いものもいいか、冷たいものもいいか、どんな飲み物が好きか」など職員の目につきやすいところに張っている。また、食べれない物等は、代替食を提供している。魚はそのまま持ってきていただき、利用者様に捌いていただいている。また、職員が料理教室に参加する機会を設けている。 (外部評価) 全て事業所で作っている。魚をさばく、食器を揃える、テーブルを拭く等、利用者ができることを行い、職員と一緒に準備や片付けを行っている。器の種類や料理の出し方などさまざまな工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューを組む段階から、栄養バランスを意識して作成されている。体重増加や糖尿病などがある入居者様にはカロリーの制限を行ったり、量を減らしたりしている。また、体重の著しい減少がある入居者様には、補助食品や嗜好品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり取られない入居者様には、水分摂取量をその都度チェックし、一日の摂取量を確認するように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者様に職員がつき合い一緒に口腔ケアを行っており、毎食時、全員の口腔ケアを行っている。歯科衛生士に訪問指導を随時に受けている。その人に応じ、ブラッシングだけでなく、フロッシングやバス法での介助ケアを行ったりしている。義歯の方は、全員毎夜にセラコートによる義歯洗浄を行っている。また、口腔ケアの必要性を入居者様にしっかりと説明し、理解していただけるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の排泄パターンや、習慣を把握し、自立に向けた支援を行なっている。パットもその方にあった吸収力の物を提供し、失禁パンツも活用している。また、必要な方に期間を決めて、排泄のチェック表を利用したり、それに基づき、入居者様に定期的にトイレへいっていただき、習慣付けている。できるだけ布パンツを着用できるよう定期的に検討している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者ひとり一人に合わせ、チェックシートを使ったり、様子を観察し誘導している。高齢者には膀胱炎のため頻尿になることも考えられるため、必要と思われる時には泌尿科の受診を勧めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎日排便の有無を確認し、便秘予防に取り組んでいる。散歩や園芸療法、買い物などで外へ出る機会を持ち、体を動かしていただき、入浴時にお腹を観察し、腹部膨満があれば、浴槽内でマッサージを行い出来る限り自然に排便できるように努めている。また、便秘になりそうな方にはフルーツやセンナ茶を出したり、食事や水分量にも気をつけて取り組んでいる。排便が出てない時のドクターの指示を一覧表にして対応しているが、月末に排便表で確認し、定期の便薬や指示内容の変更や検討も、ドクターと相談し行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様の希望に沿い、時間や回数の調節を行っている。浴槽には、入居者様が選べる入浴剤を準備しており、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。三日に一回以上は入浴できるように促し、努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>朝風呂や夜間入浴など、利用者の希望に応じて入浴することができるよう準備している。3日に1回は入ってもらおうようにしている。入浴を気持ちよくしてもらうための工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人にあった対応ができるよう、普段より生活習慣を把握するよう努めている。冷え性の方には足温や体操で体を動かしたり、朝水遣りをして、朝日を浴びたりしていただき、セロトニンの分泌が促進できるようにしている。また、夜間眠れない入居者様がいたら、リビングに出てきてもらい、ホットミルクを出したり、職員が話し相手になり不安な気持ちを解消して休めるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬チェック板を作り、誤薬、飲み忘れがないように努めている。日付と名前の確認を3回声に出してすることで誤薬防止に努めている。また、薬の変更があれば、医療ノートと申し送りノートに記入し職員が情報を共有している。その他にも、飲酒される時は必要に応じ、除薬を行ったり、熱発があった場合は解熱剤を医師と相談しながら服薬してもらう。薬局の薬剤師とも連携し、疑問があれば相談したりして連携をはかっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方その方に合わせて、これまでの生活習慣や特技が活かされる支援が出来るよう、努めている。料理が好きな方には、食事作りを、花が好きな方には、花屋さんと協力し園芸療法を、音楽が好きな人には、音楽療法士に協力していただき、音楽療法の提供などを個々に応じて行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月入居者会議が行なわれており、出来る限り希望に沿えるよう努めている。普段行けない場所を希望した際には、日帰り外出をみんなと一緒にすることで、かなえられるようにしている。歩行練習や毎朝花の水遣り、散歩で気分転換を図ったりと、ケアプランに組み込み、希望に沿った買い物を月に数回行えるように努めている。ご家族様にも外出や散歩の協力をして頂いている。 (外部評価) 日常的に公園への散歩や買い物に出かけたり、季節の花を見るためのドライブや、地域の運動会やバザーにも出かけている。遠方へのドライブ時には家族にも声をかけ喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と相談し、入居者様が少額の金銭管理をしていただいている方もおられる。欲しいものがあれば、立て替えの許可を事前に頂いているため、気軽に本人と一緒に買い物に行っている。また、地域のパン屋と提携し、月に二回、ホームで入居者様にパンを選んで買ってもらい、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様の希望にそって、ご家族に電話したり、お手紙をだされたりと、支援を担当職員が個別に行っている。また、ご家族の方で、面会がしにくい方には、定期的な電話でのやり取りをご依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 環境委員を中心に、リビングや廊下に生活感、季節感を採り入れて居心地の良い空間を工夫している。定期的な換気（1日4回以上）を行うことで自然な温度調節を心がけている。また、入居者様にとっての雑音に配慮しながら、リラクスの出来る音にも努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態に合わせて、テーブルやいすの高さを調節する等の配慮がなされている。家庭的な雰囲気の中で利用者がゆったりと生活していることがうかがえる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳コーナーや、個別に設置されたイスの他、二人がけのソファをリビングに置いてあり、入居者様同士が自由に過ごしていただけるように工夫してある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、昔なじみの家具や、アルバム、好みのものを持ち込み、家族様にお聞きしながら、本人様が居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、ベッドの高さやリビングの机（3段階）椅子（36センチから40センチ）家具の位置などその方の身体機能にも配慮してより居心地よく過ごしていただけるようにしている。車いすに関しても、背張りや背クッション、座面クッション、式台などを含め、長時間使用する場合は、工夫している。</p> <p>(外部評価) お気に入りの置物や大切なアルバムなど、思い思いの物を居室に飾っている。居室の調度品は利用者の好みや身体状況に合わせて配置されている。利用者が持ってきたベッドやソファに傷みが生じたときは、使い続けられるように職員が修理している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者様一人一人の「できること」「わかること」を理解して、日常生活に活かせるよう支援している。居室の間違いがないように、入り口に本人の写真を飾る、入居者様が調理をするためのテーブル、園芸用レイズベッドなど常に自立した生活が送っていただけるように、考えて工夫している。</p>	